

子どもたちへ



応募しめきり
2011年 8月 15日

担当事務局・問合せ先

こども環境学会
国際提案競技事務局

Web: <http://www.children-env.org/sinsai>
e-mail: comp@children-env.org

応募方法の詳細については
こども環境学会HPを
ご覧ください

応募資格：カテゴリー

1. 12歳以下：Kids

2. 18歳以下：Junior

(2011年4月1日の年齢で)

●上記は参加費無料●

世界中からの応募を待っています
ひとりでもグループでもOK

12歳以下も18歳以下もいる場合は
カテゴリーJuniorで
応募してください

© Haruna Okuyama 2011

ぼく☆わたしも考えよう！

子どもが元気に育つ「まち」

3月11日、今までにないとても大きな震災が東日本をおそいました。
このときの地震・津波、そして原子力発電所の事故で、たくさんの人が家や学校、仕事場、
そして家族や仕事などをなくしました。そして、食べものへの心配もできました。

でも、悲しみや不安な気持ちといっしょに、みんなで、新しい街をつくっていかねばなりません。
震災にあった子どもたち、あわなかった子どもたちだれもが、楽しく元気に成長するためには、
安心して学び、遊べる場所、そして、なによりも安全な食べものが、元気の源となるでしょう。

では、この地球の未来をつくってゆくキミたちが、元気に育つ「まち」とは、どんなところなのでしょう？
そして、それは、どんな考えでつくられるのが、よいのでしょうか？

大好きだった人や場所とはなれて、さみしい思いをしているキミは、どんな「まち」なら帰りたい？
遠くはなれた街で、被災している子のことを知ったキミも、その子のことを想い、考えてほしいのです。
そして、それは、キミたちがキラキラかがやく大人になるための、はじめの一歩かもしれません。

ぜひ、日本の新しい「まち」をつくるための、アイデア（考え）を聞かせてください。

主 催 : 一般社団法人こども環境学会

協 力 : 公益財団法人日本ユニセフ協会

後援（予定）: 日本学術会議、日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会、日本保育学会、

日本建築学会、日本建築家協会、日本都市計画学会、日本造園学会、土木学会、ARCASIA 他

ていあんきょうぎ
この提案競技について

★ アイデアの内容 ★

- 1 東日本大震災の被災地で、「子どもが元気に育つまちづくり」を手助けするためのアイデアであること。
- 2 震災にあった地域の人たちが、「それは、いい考えだ。よし、がんばろう。」と希望を持てるようなアイデアであること。

アイデアは、つぎのどちらかについて
考えたものを出してください。

- A 震災で被害を受けた地域全体が、どんな「まち」になったらよいか、という提案
- B 震災で被害を受けた地域から1つのまちを選び、どんな「まち」になったらよいか、という提案

★ 提出するもの ★

考えたアイデアを
絵や文章でかいたもの

- 1 . 12歳以下 : Kids
- 2 . 18歳以下 : Junior

どちらの 카테고리も
A3版 (42×29.4センチ)の
大きさの用紙1枚に
まとめてください

アイデアをまとめるときに必要な、被災した都市や地域の情報については
こども環境学会のホームページにのせていますので、参考にして下さい。

★ 審査委員 ★

提出した作品をみて
優れたアイデアかどうかを
判断する人たち

- 1 この提案競技を計画したり、
支えている人で、まちづくりや
子どもの成長に関する研究など
をしている専門の人たち
- 2 被災地にすむ人
- 3 子ども代表

★ スケジュール ★

応募の発表	5月25日
しつもの受付	6月1日～6月10日
参加申し込みできる日	6月1日～8月15日
応募しめきり日	8月15日
賞の発表	8月末

Gold (最優秀賞)

Silver (優秀賞) を選びます

Bronze (佳作)

- 応募で集まったアイデアを作品集にして出版します。(9月下旬)
- 作品集を、提案対象地区となった県や市などの関係者に贈ります。
- 作品はホームページなどにのせ、多くの人に見てもらえるようにします。
- 優れたアイデアを出した人を、年齢に関係なくその地区の復興マスターアーキテクトとしてすいせんします。

★ 担当事務局・問合せ先 ★

こども環境学会 国際提案競技事務局
Web: <http://www.children-env.org/sinsai>
e-mail: comp@children-env.org

★ 参加にあたってのお願い —とても大事なことです— ★

- 1 この提案競技について、関係する自治体(県や市役所など)へ直接の問い合わせはせずに、わからないことや聞きたいことがある場合は、かならず、こども環境学会まで連絡してください。
- 2 アイデアをまとめる時には、新しいまちづくりをみざす被災した人たちの不安や困っていることをできるだけよく調べて、どんなまちならよいか、生活しやすいかなども考えてほしいと思います。また、自分だったらこうしたい、こうだったら助かるなあ、という自分の目も、ぜひ、大事にしてください。
- 3 この提案競技は、被災地の人々が、自分たちのまちをより良いかたちで、つくってゆくためのお手伝いだということを忘れないでください。今、被災地を助けたい想いで、研究や調査をしに行く人が多く、住んでいる人たちは、少し困っているようにも見えます。もし、被災地をたずねる時は、住んでいる人・働いている人の生活や活動の邪魔をしないように、くれぐれも注意してください。
- 4 提出したアイデアは、提案した人の作品であることに変わりありませんが、アイデアは、被災地の人たちが、まちづくりに活かすために、いろいろなることを調べてゆく材料になります。提案した人の名前がはっきりわかるようにしておく約束ですが、提案した人に連絡せずにアイデアを活用することができるようになりますので、かならず、この方法をよく理解してから応募してください。